環境分科委員会のプロジェクト

北東アジア地域との渡り鳥に関する共同調査（富山県）

１　目的

日本では、極東地域をはじめ大陸から渡ってくる冬鳥や旅鳥の渡りのルートなどを解明するための全国的な調査体制が整備されている。

しかし、これらの渡り鳥の繁殖地及び移動コースであると考えられている極東地域では、日本と大陸とを往来する渡り鳥ルート等が解明されていない。

このため、極東地域の自治体と共同で渡り鳥の移動経路、寿命、繁殖開始年齢などを解明するため標識調査を実施する。

２　事業内容

(1)　実施時期

渡りの時期である春期及び秋期

(2)　実施場所

参加自治体の渡り鳥中継地

(3)　実施方法

ア　調査主体

参加自治体が民間団体等の協力を得て実施

イ　調査方法等

（調査方法）

- 共同調査の調査地点、調査方法、調査資材、スケジュール等の計画を立案する。
- 両者の協議によって標識調査箇所を選定し、青少年参加による共同調査を実施する。

（調査報告書の作成）

- 調査結果を共通した記録様式で作成し、とりまとめる。

(4)　参加自治体

ロシア沿海地方

３　平成１６年度事業結果

(1)　参加自治体

ロシア沿海地方

(2)　実施結果

環日本海環境協力の一環として渡り鳥に関する共同調査を進めるため、沿海地方において中心となって調査を行う担当者を、平成１６年４月２１日（水）から２９日（木）までの７日間、富山県の「婦中鳥類観測ステーション」に招き、調査対象鳥類に個体識別用標識（足環）を付ける一連の作業をとおして調査方法を研修するとともに沿海地方での調査内容・調査箇所を検討・協議した。

また、ロシア沿海地方の中学生や高校生の児童エコクラブ員らを受入れ（公益信託日本経団連自然保護基金）、富山県ジュニアナチュラリストとの意見交換やビオトープづくりなどを

通じて、両国で調査等に関わっている青少年の交流を深めた。

　沿海地方では、６，６７４羽（ナホトカステーション（ノーバリトーフカ））の小鳥類に標識調査（バンディング）を実施することができ、捕獲放鳥した鳥類の共通種は、カシラダカ、アオジ、ホオアカ、ホオジロ、シロハラ、トラツグミ、アトリ等８８種であった。

婦中鳥類観測ステーションでの実習

巣箱についての講義